HONDA

News Release

2024年12月5日

2024-2025 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて
「FREED」が「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を、
「CR-V e:FCEV」が「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

Hondaの「FREED（フリード）」が、2024-2025 日本カー・オブ・ザ・イヤー（主催：日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会）で「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を、

「CR-V e:FCEV（シーアールブイ イーエフシーイーブイ）」が「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。

フリード

SINCE 1980
JAPAN CAR OF THE YEAR
2024-2025

2024-2025 日本カー･オブ･ザ･イヤー
テクノロジー･カー･オブ･ザ･イヤー受賞

日本カー･オブ･ザ･イヤー実行委員会主催

CR-V e:FCEV

受賞理由は以下の通りです。

フリード

【日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞理由】

5 ナンバーサイズで 3 列シート。日本市場で重用されるファミリーカーゆえ、これまでは突出したキャラクターを生み出しづらかったことも事実。ホンダはそこに切り込んだ。居住性、使い勝手の良さに磨きをかけるとともに、動的質感の向上、ひいては操縦の喜びをも加味することに成功した。ガソリンエンジンモデルに加え、ホンダ独自のハイブリッド「e:HEV」を加えたことも大きな魅力のひとつ。ホンダが大切にしているＭ・Ｍ（マン・マキシマム、メカ・ミニマム）思想を見事現代に体現した 1 台である。

※ 日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会のホームページから引用

CR-V e:FCEV

【テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー受賞理由】

燃料電池車のパイオニアであるホンダの CR-V e:FCEV が受賞した。いまだマイナープレイヤーである FCEV の民主化を目指し、スタックの小型化、高効率化を実現。同時に低コスト化と高耐久性も両立し、人気カテゴリーであるミドルクラス SUV カテゴリーに投入した意義は大きく深い。また水素ステーションが少ない不安を払拭するために、外部充電が可能なプラグインハイブリッドとして使い勝手を向上させた点も高い評価を得た理由である。

※日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会のホームページから引用

■フリードの特長

2024 年 6 月に発売したフリードは、人びとの暮らしだけではなく、使う人の気持ちにも寄り添い、日々の暮らしに笑顔をもたらすクルマとなることを目指して開発されました。お客様の生活スタイルに合わせてお選びいただけるよう、上質で洗練されたシンプルなデザインの FREED AIR（フリード エアー）、力強く遊び心にあふれるデザインの FREED CROSSTAR（フリード クロスター）の 2 タイプを設定し、それぞれの個性をより際立たせています。

ハイブリッドモデルには、Honda 独自の 2 モーターハイブリッドシステム「e:HEV（イーエイチイーブイ）」を搭載し、スムーズで力強い走りを実現しています。

■CR-V e:FCEV の特長

2024 年 7 月に発売した CR-V e:FCEV は、日本の自動車メーカーが発売するモデルとして初めて※、外部から充電可能なプラグイン機能を持つ燃料電池自動車（FCEV）です。家庭や外出先での充電が可能なプラグイン機能を加えることで利便性をさらに高めています。

CR-V e:FCEV は、Honda とゼネラルモーターズ（GM）が共同開発した FC スタックを搭載しており、この FC スタックは従来システムに対しコストを 3 分の 1 に削減、耐久性を 2 倍に向上させたほか、耐低温性も大幅に向上しています。

また、6 代目 CR-V をベースにすることで、SUV ならではのユーティリティーやパッケージで個人のお客様の多様なニーズにもお応えします。

※ 2024 年 12 月時点 Honda 調べ

【本田技研工業株式会社 フリード開発責任者 安積 悟（あづみ さとる）のコメント】

「私たちは、これまでフリードが大切にしてきた価値をさらに磨き上げ、お客様の生活だけではなく、使う人の気持ちにも寄り添うクルマとなることを目指し、チーム一丸となって開発しました。この想いが多くの皆様に受け入れられ、名誉ある日本カー・オブ・ザ・イヤーに選ばれたことを大変うれしく思います。ありがとうございました」

【本田技研工業株式会社 CR-V e:FCEV 開発責任者 生駒 浩一（いこま こういち）のコメント】

「FCEV としての現時点での最適解として、水素を使うことなく日常使いができるプラグイン機能、手軽に電気を取り出せる給電機能、また使い勝手のよい SUV をベースにするなど、FCEV の新しい価値を提案したのが CR-V e:FCEV です。GM と共同で進めた FC スタック開発の道のりは決して楽ではありませんでしたが、開発チーム一丸となり、性能が大幅に向上した FC スタックを作り上げることができました。CR-V e:FCEV がこのような名誉ある賞をいただき、大変ありがたく、この喜びを開発チームと分かち合いたいと思います。来るべき水素社会、またカーボンニュートラル社会の実現に向け、今後も Honda は挑戦を続けていきます」